

研究指導の文化的背景

ーポストコロニアル時代の模索

Supervision and culture: post-colonial explorations

講演者

キャサリン・マナトウंगा氏

(オーストラリア・クイーンズランド大学 教育開発機構 上級講師)

日時 2011年3月10日(木) 14:00~16:00

場所 名古屋大学東山キャンパス
教育発達科学研究科・教育学部
大会議室(教育学部本館1階)

講演概要

どんな研究指導にも教員による指導と学生側の主体性というせめぎあいが存在する。指導教員と学生の信頼関係や教授方法という表層の下には、両者が背負っている文化的背景や教育システムが潜在する。このセミナーでは、オーストラリアの大学において指導教員と学生の文化的多様性が研究指導にもたらす影響について紹介する。ポストコロニアルリズムのメタファーを用いて、異文化的な研究指導環境が教員による研究指導および学生の学習にいかんに影響を及ぼしているかを考察したい。名古屋大学で実施した研究指導に関する調査経過も併せて紹介する。

対象

研究指導や異文化間教育に関心のあ
る教員、大学院生を歓迎します。

備考

このセミナーの講演部分は英語で行い
ますが、キーワードは日英併記します。
質疑応答の際にも日本語による質問や
コメントを適宜通訳しますので、多くの方
のお越しをお待ちしております。

お問合せ先:

西原 志保

info@cshe.nagoya-u.ac.jp

Tel:052-789-5814

